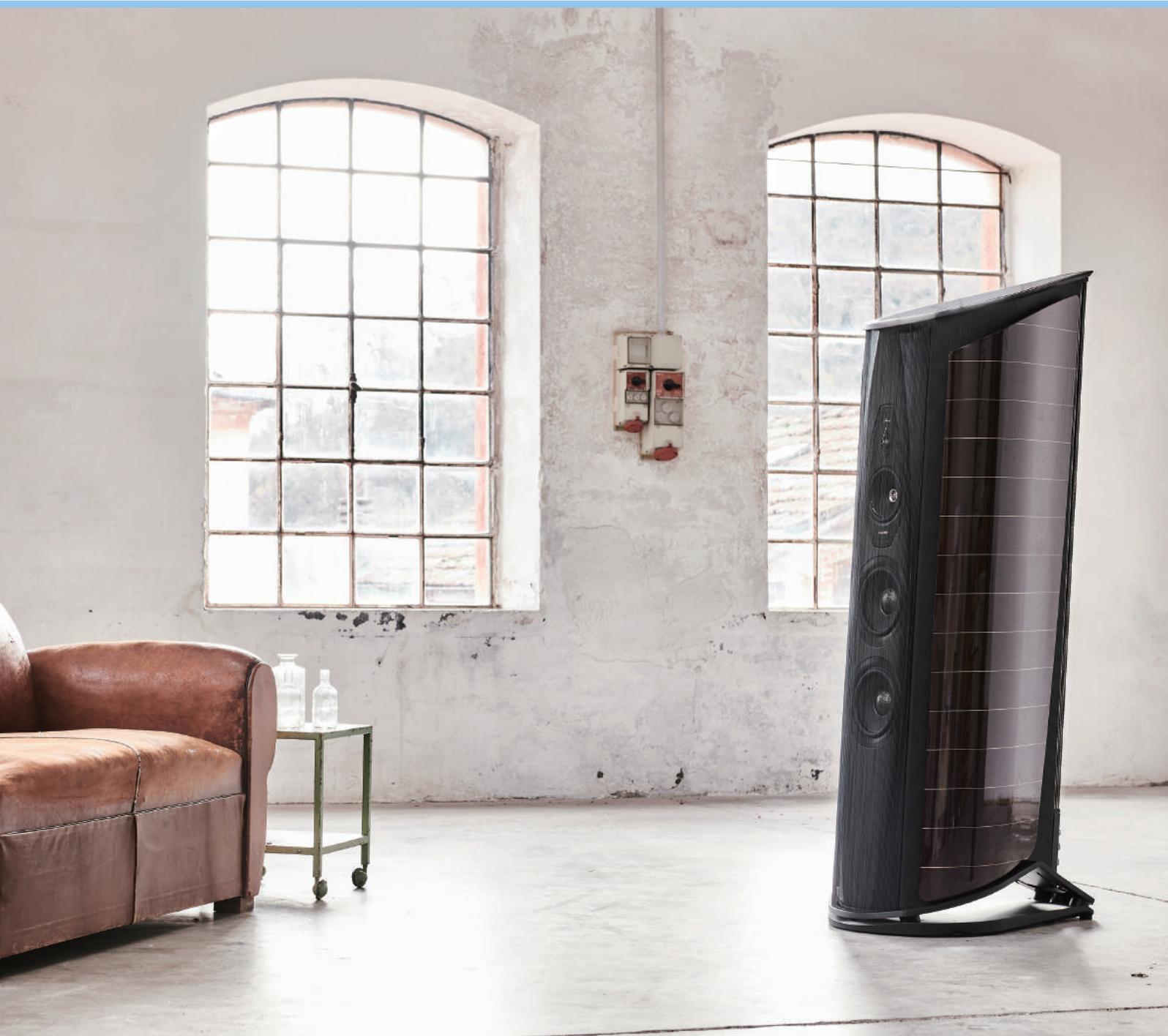


Sonus faber®

Orica II



Aida II

不変の価値と新たな価値を融合する
壮大なプロジェクトが迎えた、第二幕。



不断の進化を体現、新生を果たした名品。

2011年に登場した“アイーダ”。それは、イタリア統一150周年への祝意もこめてイタリアを代表する歌劇の名前を冠した壮大なプロジェクトであり、ソナス・ファベール史の金字塔たる“the Sonus faber”に結実した技術を惜しみなく注ぎ込んだ、新しいソナス・ファベールの象徴でもありました。それから7年。アイーダは、不断の進化を続けるソナス・ファベールのスピーカー・テクノロジーをふまえ、“アイーダII”として新生を遂げました。



Sonus faber

流麗にして考え抜かれたキャビネット・デザイン。

「ライラ・シェイプ」の新たな頂点

2011年の“アイダ”は、ソナス・ファベールが、キャビネット内部の平行面をなくすことで定在波の低減を目指して追究してきた“リュート・シェイプ”の進化形、“ライラ・シェイプ”の頂点を極めるモデルでした。“リラ”(堅琴)を意識したライラ・シェイプは、キャビネット後部を絞り込んで前部と逆方向のカーブを持たせることによってスピーカー内のエネルギーをいっそう効果的に管理、音の回り込みを防止する一方で、構造的な強度も確保する革新的な手法。“アイダII”は、美しく流麗にして音響学的に考え抜かれたこのライラ・シェイプを、さらに洗練された形で継承しています。

強く、美しいキャビネット

キャビネット本体の基本的な骨組みに均質で強度に優れた素材であるMDFを採用した上で、バッフルやサイドパネルなどキャビネットのほとんどの部分を、マホガニーに似た風合いの広葉樹“オクメ(Acoumea)”材で構築。厚みの異なるシート状にした上で、木目の角度を交互に90度変えて積層させたプライウッドとし、プレス機で加圧しながら美しくも強靱な曲面を持たせています。また、表面の突板には、従来のウォルナット材に加えて、“オマージュ・トラディション”で初めて採用された広葉樹“ウェンゲ(Wenge)”材仕様も用意。メイプル材インレイとハイグロス・フィニッシュによって秀麗なスピーカー造形を実現しています。

最新・最先端の制振テクノロジー

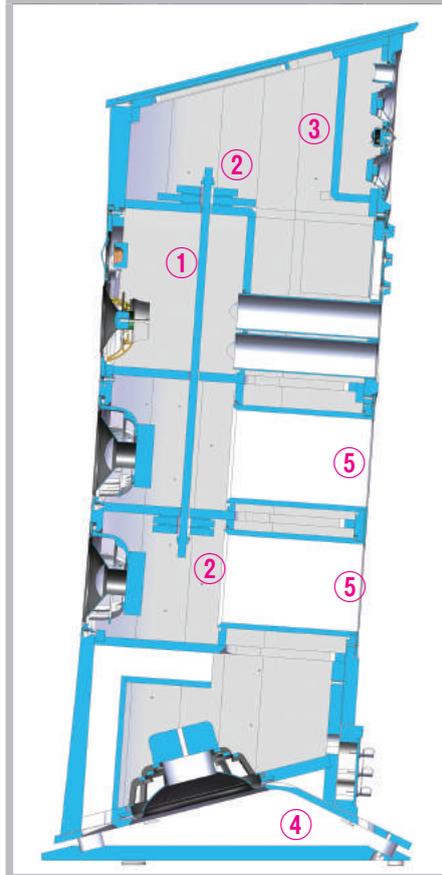
一点の曇りもない、澄명한再生音を獲得するために磨かれてきた、ソナス・ファベールのキャビネット制振技術。アイダIIでは、その最新成果を余すところなく投入、初代アイダを生んだ斬新なアプローチから一歩も二歩も進んだ手法によって、音楽を奏でる道具としての美しさと両立することに成功しています。

■より精密にチューニングされたキャビネット

キャビネット内部は高粘弾性素材を圧縮・積層させる構造として防振と共振排除を追究した上で、補強リブをより効果的に配置することで総合的なキャビネット・チューニングを行っています。また、アルミニウム削り出しブロックとガラスの異種素材で構成したトップパネルは、優雅なライラ・シェイプを際立たせるのみならず、CNC成型による30mm厚アルミニウム製ベースプレートとともに、上下からキャビネット全体の剛性と強度を確保し、微小振動を排除する“ダンプシェル”としての機能を担っています。

■“アニマ・レガータ”がコンパクトかつ強靱に進化

フロント・バッフルから独立したツイーター+ミッドレンジ、ウーファー 2本の各ドライバー用チェンバーを非磁性合金スチール製ロッドによって連結す



る“アニマ・レガータ”(Anima Legata=魂柱)も、アイダIIでは、よりコンパクトかつ効率的に結合できる方法を追究し、キャビネット重量を増大させることなく全体の強度を向上する洗練されたアプローチにアップグレード。逆相振動によって残留微小振動を打ち消す2基の“質量調整ダンパー (TMD=Tuned Mass Damper)”とあいまって、不要振動・共振ファクターを徹底的に排除するコンセプトに磨きをかけています。

■完成度を向上した“ZVT”

キャビネット全体は、“the Sonus faber”以来ソナス・ファベールが改良を重ねてきた“ZVT”(Zero Vibration Transmission)によって床面振動からアイソレート。アルミニウム製ベースプレート上部に、15mmサブベースプレートとエラストマー樹脂材を弓型に成型した“ボウ・スプリング・サスペンション”をマウント、スプリアス共振やアコースティック・フィードバックなどリスニングルームのあらゆる振動要素をシャットアウトするこの特許技術は、アイダIIにおいてますます完成度を増しています。



リアバッフル最下部の入力ターミナルは、バナナプラグにも対応するトライワイヤリング方式。パワーアンプ(ステレオ)1台での駆動だけでなく、別のパワーアンプでスーパーウーファーを駆動するバイアンプ方式、ミッドレンジ+ツイーター、ウーファー、スーパーウーファーをそれぞれに別個のパワーアンプで駆動するトライアンプ方式など多様なシステム・アップが可能です。

- “ボウ・スプリング・サスペンション”による、進化した“ZVT”。キャビネット全体を床面からアイソレートします。
- 高速な低域再生、ポートノイズ排除を実現する“ステルス・ウルトラフレックス”ポート。

キャビネット断面図

- ① 独立チェンバーを強化する“アニマ・レガータ”構造。
- ② 微小振動を相殺する“TMD”。
- ③ サウンド・シェイパー部。
- ④ 床面とキャビネットをアイソレートする“ZVT”。
- ⑤ 低域パフォーマンスを拡大する“ステルス・ウルトラフレックス”ポート。

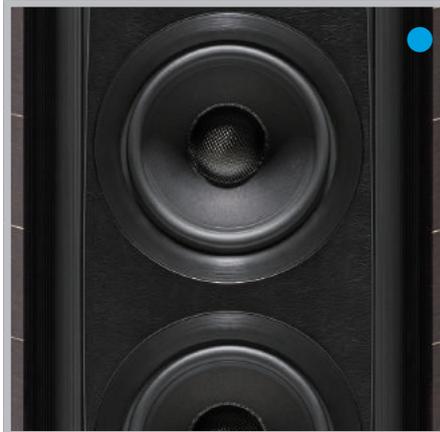
新時代のパフォーマンスに向けてドライバー・ユニットを一新。

音色を統一した高域と中域

アイダIIは、フロント・パッフルにツイーター、ミッドレンジ、ウーファー 2本、底面にサブウーファーを備えた3.5ウェイ・システム。背面にはツイーターとミッドウーファー 2本で構成される“サウンド・シェイパー”を備えています。このたびのリデザインに際し、そのドライバー・ユニットのすべてがソナス・ファベールの手で新たに設計・製造されました。まず、3kHz以上の再生を担うツイーターは28mm口径で、ソナス・ファベール独自の“アローポイントDAD”を採用したシルク・ソフトドーム。クラシックなドーム型が持つマイルドな音色と優れた指向特性、リング・ラジエーターの高域特性の伸びを兼ね備えたドライバーで、ドーム頂点をダンピングすることから「DAD=Damped Apex Dome」の名があります。ネオジム磁石による強力磁気回路で駆動、木製の音響チェンバーとあいまって、きわめてダイナミックなリアリティーを発揮します。このツイーターとの音色上の統一感を獲得すべく同じチェンバーにマウントされたミッドレンジは、やはりネオジム磁気回路を備えた180mm口径のコーン型。200Hzから3kHzに至る広い帯域の再生を担っています。ダイアフラムは、セルロース・バルブのほかケナフ、カボックなどの天然繊維を自然乾燥させ、圧縮することなくブレンドしたカスタムメイドで、高粘弾性のコーティング材によりコーンの色づけ要素を一掃しています。特製の同軸アンチコンプレッサーも不要共振や歪みの低減に貢献、スピーカーの音楽性にとって重要な中音域を自然な音色で再現します。

力感あふれる低域再現性

200Hz以下の低域を受け持つのは、220mm口径のコーン型ウーファー 2本。上側が200Hz以下、下側が150Hz以下をサポートするスタガー構成になっています。ダイアフラムは中空粒子配合のコア材を、ダイアフラムはシタックチック・フォーム製コアを、ミッドレンジと同様のコーティング処理天然セルロース・バルブ素材で挟み込む軽量サンドウィッチ構造で、中域との音色のつながりを絶妙に保ちながら分解能に優れた低域再生を可能にします。渦電流対策を重視した2インチ口径ボイスコイル、高速でリアリティーに優れたパフォーマンスを実現するネオジム磁気回路により、大振幅の信号にも余裕を持って対応できるこの強力なウーファーの力感をさらに拡大するのが、“ステルス・リフレックス”から進化した“ステルス・ウルトラフレックス”チェンバー。アイダIIでは、構造やサイズなどを総合的に見直し、トータルでリデザインすることによってポート内の空気の流れに起因するスプリアス振動や歪みを極限まで抑えこみ、低域再現性のクオリティーを大幅に向上、ソナス・ファベール独自のこのテクノロジーを新たな次元に引き上げています。



アイダIIは、さらに55Hz以下の超低域再生を担う320mm口径スーパーウーファーも備えています。中空粒子配合のコア材をナノカーボン・シートで挟み込むサンドイッチ構造コーンにより高い剛性を獲得、ソナス・ファベール史上最大とも言える4インチ口径のロングスロー・ボイスコイルを備えたネオジム磁気回路によって、高速でダイナミズムに富んだ堂々たるパフォーマンスを実現します。“ZVT”とボトムプレート間に下向きで設置、ドライバー・ユニットのエネルギーをより効率的に引き出せるようチェンバー構造も一新しており、深く伸びながら360度に広がるナチュラルな低域の力感を満喫していただけます。

音場を創成する独自のアイデア

背面には“the Sonus faber”からアイダに受け継がれた“サウンド・シェイパー”を採用。フロント・パッフル同様のアローポイントDADと80mm口径ミッドウーファーによる独立した2ウェイ・システムで、アイダIIでは、ミッドウーファーを2本採用してパワー感を向上した上で、チェンバー構造も見直しました。音圧レベルを5段階(0~4)で切り換えて直接音と残響の割合を調整することにより、リスニングルームの特性に合わせて自在に音場を創成することができます。

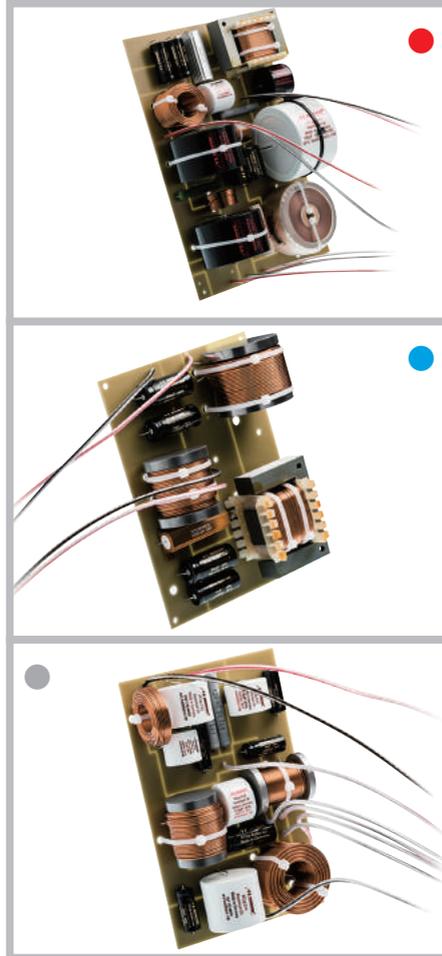


- ツイーターとミッドレンジをモジュール化し、独立チェンバーに設置。高域の音圧レベルは3段階で切り換え可能。
- ウーファー 2本はそれぞれ独立チェンバーにマウント。
- 大口径ボイスコイル採用スーパーウーファー。音圧レベルは3段階で切り換え可能。
- サウンド・シェイパー。音圧レベルを5段階で切り換え可能。

最新の研究成果を反映したクロスオーバー設計。

見直しを徹底した回路設計

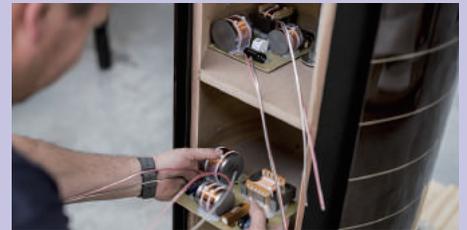
アイダIIでは、キャビネット設計のリファインメントとドライバー・ユニットのリデザインに合わせて、サウンド・シェイパー用も含めたすべてのクロスオーバー・ネットワーク設計を見直し、システム全体のパフォーマンス・バランスをあらためて再調整。いずれも各チェンバー内に設置されることから、共振の影響を排除するリジッドな設計を徹底しました。また“オマージュ・トラディション”をはじめとする近年の大型システムの開発を通じて改良を重ねた“パラクロス・トポロジー”（位相幾何学）に基づき、セミバランス構成とした新たな3次ハイパスフィルターとすることによって、各ドライバー・ユニットの振幅／位相特性、空間／時間特性を最適化する一方、低域周波数のインピーダンスを最適に制御してアンプとのマッチングに配慮しています。クロスオーバー・ポイントも見直して55Hz / 150Hz / 200Hz / 3kHzに設定。ドライバー・ユニットの新規設計や“ステルス・ウルトラフレックス”の採用もあって、周波数特性も大幅に改善されました。もちろん、使用パーツも再選定しており、ドイツ・ムンドルフ製“シュプリーム・シリーズ”最新世代のEvo Silver / Gold / Oilコンデンサーや、デンマーク・ヤンツェン製クロス・コイル・インダクターなど、高品位なパーツを惜しみなく投入しています。



- 高域／中域のクロスオーバー回路。
- 低域のクロスオーバー回路。
- サウンド・シェイパー高域／中・低域のクロスオーバー回路。

伝統のクラフトマンシップ

伝統と革新を融合するソナス・ファベールの姿勢は、設計段階から組み上げの段階まで一貫しています。キャビネットやドライバー・ユニットの開発・設計に始まるほとんどのプロセスが、ヴェネト州ヴィチェンツァの工房で進められています。



Specifications

- 形式 3.5ウェイ5スピーカー + 2ウェイ3スピーカーフロアスタンディング型
- 使用ドライバー・ユニット
 - 高域 28mmアローポイントDADシルク・ソフトドーム型 (H28 XTR-04)
 - 中域 180mmコーン型 (M18 XTR-04)
 - 低域 220mmコーン型×2 (W22 XTR-12)
- スーパーウーファー 320mmコーン型 (SW32 XTR-08)
- サウンド・シェイパー 高域 29mmアローポイントDADシルク・ソフトドーム型 (29 XTR2)
- サウンド・シェイパー中・低域 80mmコーン型×2 (M8 XTR)
- クロスオーバー周波数 55Hz / 150Hz / 200Hz / 3kHz
- 周波数特性 18Hz ~ 35000Hz
- 出力音圧レベル 92dB / W / m
- 公称インピーダンス 4Ω
- 推奨アンプ出力 100W ~ 1kW (クリッピングなし)
- スピーカー端子 トライワイヤリング対応
- 寸法 幅482×高さ1725×奥行780mm
- 重量 (1本) 165kg
- キャビネット仕上げ Wenge / Red (ハイグロス・フィニッシュ)

